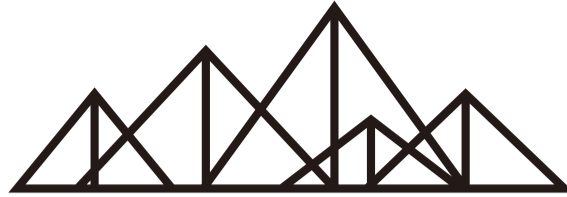


Vol.14



Take Free ¥0

赤城山観光情報紙

AKAGIT

SPRING / SUMMER 2024

赤城神社元宮

【特集】縁で結ばれし、山頂へ。

赤城山、ミライの話をしよう。

あかぎこ女塾

森のランチにぴったりのスペシャルなパンケーキ。

シカモアカフェテラス



週末、東京から**2**時間の里山環境リゾート 赤城山

特集

縁で結ばれし、山頂へ。

AKAGIFTvol.14では、赤城山山頂、標高約 1,344mに鎮座する赤城神社元宮を特集する。社殿正面に広がるのは、四季折々に美しく輝く赤城大沼。背には日本百名山である赤城山の最高峰、黒檜山が迫りくるようにそびえ、空を見渡せば外輪山の稜線がくっきりと浮かびあがる。それはまるで“玉手箱”の中のように、美しくも遮断された世界。そこには珠玉のエピソードがあふれている。

山の清らかな頂から。

赤城大沼の小鳥ヶ島に鎮座する赤城神社元宮を訪ねたのは、まだ暖かさもある12月下旬だった。それでも湖面を渡って吹きあがってくる風は十二分に冷たさもはらむ。厳冬の赤城山山頂は言わずもがな景色が一変する。雪と氷に包まれる世界がすぐそこまで来ていると風が告げていく。

「御祭神の赤城大明神は、この山と湖の神様なんですね」と柔らかな語り口で話しはじめてくれた第47代宮司の塩原さん。おおよそ縄文時代の頃から麓の人が信仰していたといわれる山岳信仰。「その頃から山というのは一番天界に近いところにある存在でした。神様が住んでいるのは遠い山の清らかな頂などで、お祭りをするときにお呼びし、終わるとお帰りをいただく。それが昔の信仰形態でした」と分かりやすく説明する。神社イコール神様がいらっしゃる場所と考えがちであるが、古くは山から神様を呼び、お祭りが行われていたのだ。

黒檜山の頂上付近から見ると、まさに眼下に広がる小鳥ヶ島。湖畔から丸い匙を差し出したかのような形のこの島、かつては湖畔と離れていたが、現在は陸続きになっている。「この土は黒檜山の山腹が崩れた時のもので黒檜と同じ土なんです」。

古くから小鳥ヶ島は聖域だった。

神社の歴史を遡ると、大同元(806)年より以前は神庫山(現在の地藏岳)中腹に社があり、そ

れを大沼南湖畔に移して社殿を建てたという記述が残っているようだ。350年前に大沼南湖畔に再建された旧社殿は、老朽化がすすみ、その他の要因も鑑みて、1969年に「古くから祈りの場であり“聖域”であった小鳥ヶ島へ遷座すること」。

小鳥ヶ島での社殿再建にあたり、平安時代後期～室町時代に製作されたと推定される銅鏡10面が出土した。出土鏡は群馬県指定重要文化財として県立歴史博物館で展示されている。「大沼や小沼の湖畔や登山道からも鏡が多数見つかっています。神社には1,000枚にもものぼる鏡が奉納されて」。鏡はかつて祭祀の時に使われていたり、お願い事をする時に湖へ納められた。「貴族の特権階級しか持てなかったようですが、江戸時代になりますとだいたい鏡が出回って、一般階級の人々も奉納していたようです」。はるか遠い昔から、女性たちが鏡に願をかける、そんな姿がおぼろげながら浮かんでくる。



シンメトリーのデザインが美しい銅鏡。周りには5つの鈴が。



実人プロフィール

#67 塩原 康弘さん
Yasukiro Shiobara

上毛野国赤城山鎮座赤城神社第47代宮司。赤城山で一番好きな季節は冬。すべてが白に覆われ、空の青と神社の赤のコントラストに惚れ惚れするとのこと。

大沼南湖畔に位置する旧赤城神社跡

女性の願い。それは特別に叶うべきもの。

日本の中世の説話集である『神道集』には赤城姫と淵名姫の伝説が描かれており、女性がこの神社に願をかけると必ず叶うというふうで紹介されているそうだ。そのような歴史をたどり、赤城神社元宮は遠い昔から「女性の願いを叶えてくれる神社」として広く知られるようになった。

今回の取材で神社に奉納された鏡の一部を特別に見せていただいた。「これは平安、このあたりは鎌倉、室町…、江戸時代のはこのあたりだと思います」。製作年代順に並べていただいた鏡をつぶさに見ていく。サイズは手鏡くらいといったらイメージしやすいだろう。平安の頃のものとは比較的小ぶりで、江戸時代のものになると一回りほど大きく分厚く、ずっしりとした重みがある。「実は、わたしが子どもの頃は神社の柱は角柱で、そこにこれらの鏡が幾枚も数珠つなぎのように下がっていたんですよ」と懐かしい思い出を口にした。

山開きは、一大イベントだった。

山登りをしていて気づいた人もいるのではないだろうか。竹の棒にお札をつけた“梵天”と呼ばれるお飾り。地元の実験者である“総代”の方々が、旧暦では4月8日、現在の暦で5月8日の「山開き」の際に赤城山七峰の頂に運び、お供えてくるのだそう。今でこそ、冬登山に赤城山を訪れる人も少なくないが、「山開き」というと一般的に登山が許可される日を指す。「かつては7つの頂に神仏が祀られ、修験者が修行していました」。秋から冬、そして春の山開きまでの人が登ってこない間に修行をし、山開きになると山を下りてお祭りのご奉仕をされていた。極寒の赤城山での修行。どのように暖をとっていたのか想像もつかない。「木々に囲まれ細かな枝はそれこそたくさんありますから、拝殿と本殿のちょうど間のあたりの祝詞座と呼ばれるところ



黒檜山頂上付近



山開きの祭事

で護摩を焚いていたようです」。

昭和40年代のはじめの頃までは、山開きのために麓の人が夜を徹して登ってきたという。8箇所の登山口があり、前橋はもちろん、桐生、大間々、沼田方面など、各地区の人々が一堂に会する特別な日であった。「大洞の神社の広場が本店でいっぱいになってにぎやかで、若い皆さんの出会いの場にもなったようです」とのエピソードが。人が集うことで自然と“ご縁”がつながり、麓の人々が帰るときには「御神水」を竹の

一筋に入れて持ち帰った。水を引き入れている自分たちの田んぼにその御神水を流し、豊作を祈ったそうだ。

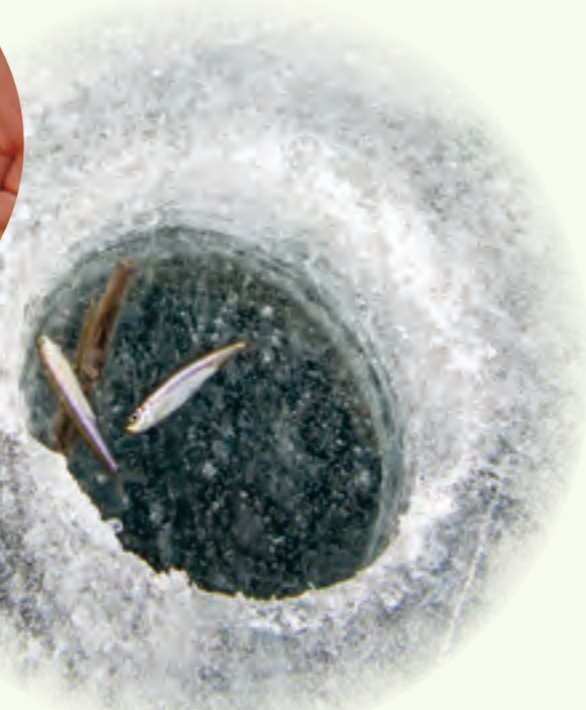
まぎれもなく、山には神様が住み、山を中心に人々の暮らしの営みが広がっていた。人間は小さな存在だ。だからこそ、先人たちのようにもって山という懐深き存在に心身をゆだねてみたいのかもしれない。赤城山へ“還る日”をつくってみてはどうだろう。

上毛野国赤城山鎮座赤城神社

前橋市富士見町赤城山小鳥ヶ島
TEL.027-287-8202
http://akagijinja.jp/sp/



2種のワカサギおみくじ。大吉なら大漁まちがいなし!



赤城山 山頂周辺 マップ

地図内の Vol. が付いている場所は、これまでに発行されたAKAGIFTの各号で紹介していますので、ぜひご覧ください。
バックナンバーは8ページでCHECK!



大洞エリア 拡大図



山頂周辺の
気になる
"これから"

詳しくは
こちら



赤城山の活性化
群馬県ホームページ
(自然環境課)

赤城山、ミライの話をしよう。

令和4(2022)年10月に群馬県により策定された「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」。生きがいやウェルビーイングなど、これからの共感価値を取り込み、自然環境の保全・保護に配慮した利活用を図ることで、公園の魅力を引き出す「赤城ウェルグラウンド」を目指していくというもの。それに伴い、新しく2拠点の整備が進められる。一つは、長く親しまれてきた「県立赤城公園キャンプ場」。湖畔の雰囲気はそのままにエリアを大きく拡大して「大沼キャンプフィールド」として、もう一つは「県立赤城公園ビジターセンター」がショップやカフェを完備した山頂エリア全体の拠点施設「赤城ランドステーション」として生まれ変わる予定だ。

大きく動き出した今、赤城山で暮らす人、働く人、赤城山に惚れ込んで通う人、さまざまな立場の皆さんに赤城山のミライへの思いを伺った。思いは十人十色。共通しているのは、赤城山を愛する心だ。



赤城山大沼氷上ワカサギ釣り

赤城山は、だれもが安心して利用できる理想的な観光地へ。

待ちに待った赤城山のシンボルでもある啄木鳥橋の復活や、有料のキャンプサイトの新設等が決まり、山頂エリアはこれから先の5年で大きな転換期を迎えます。今、ようやくその入口に立ったところです。ハード面の整備が今後すすんでいけば、滞在時間をより楽しんでもらうための食、アクティビティなどあらゆる面を充実させていく必要があるでしょう。常に大局を見ながら、その一方で、宿を訪れる皆さんとのコミュニケーションも変わらず大切にしたいですね。会話の中にこそ、未来につながるヒントがたくさんあります。

青木 泰孝さん Yasutaka Aoki

- 青木旅館 6代目当主
- 赤城山観光連盟 会長
- 赤城大沼漁業協同組合 組合長



小沼湖畔遊歩道

大好きな赤城山を観光の視点から元気にする。

観光とは、地域の魅力に光をあて、それを光輝かせることだと思います。赤城山には、自然、文化、食や人など、歴史が紡いできたストーリーが数多くあります。赤城山を、次の世代により良い形で残していくためには、そのような数々のストーリーを背景に、将来への種を蒔いていくことが、大切だと思います。「前橋には何も無い」ではなく、「赤城山があるじゃん」で、前橋市民に思ってもらえるように、そして、赤城山を生業にするみんなが、笑顔になるようなことを、これからも仕掛けていこうと思います。大好きな赤城山に、ぜひ期待してください。

林 智浩さん Tomohiro Hayashi

- HUTTE HAYASHI、とんとん広場 オーナー
- 前橋市林間研修施設おおさる山乃家 所長
- AKAGI PIG-OUT CAMP 実行委員長



純粋に、遊ぶことに貪欲な若い世代を取り込んでいきたい。

皆それぞれに大洞地区の湖畔で飲食店を営んでいます。赤城大沼漁業協同組合の中でも若手といわれる私たちが中心となって、赤城山の観光の目玉であるワカサギを卵から稚魚へ育てることに日々奮闘しています。赤城山はファミリー層や中高年の方々に認知度が高く、ファンも多い山だと思っておりますが、今まで抜けていた客層、たとえば中学生・高校生が友達同士で遊びに行きたくするような場所にしていきたいですね。氷上ワカサギ釣りは、若者同士で楽しむ姿も随分増えていきましたので、若い人に「ささる」アクティビティを増やしていきたいです。



- 左から
- 會山 雅晴さん Masaharu Soyama ● 會山商店
 - 田中 宏美さん Hiromi Tanaka ● みやま山荘
 - 塩原 弘隆さん Hirotaka Shiobara ● バンディ塩原
 - 藤生 真穂さん Masatoshi Fuji ● 名月館

レンゲツツジの名所、赤城白樺牧場。普段入れない牧場内を巡る秘密の絶景ツアーも。

赤城山は可能性の塊。やる気パワーで地元を盛り上げる！

赤城山の観光を盛り上げるための努力も協力も惜しまないという姿勢でやっています。原動力はとにかく「赤城山が好き」という強い気持ち。赤城といえば、ワカサギ、ツツジ、雲海が三大名物ですが、2022年より台湾台南市と連携した赤城山らんたん祭りも開催され、夏の大沼湖畔が台湾一色に。赤城山へ足を運ぶ「目的」や「理由」さえ明確になれば、言わずもがな多くの人出と活気が生まれることを改めて実感。実は、数年前より調査がはじまっている地熱発電も含め、赤城山は可能性の塊。その芽をやみくもに摘んでいては未来はないと断言できます。

青木 猛さん Takeshi Aoki

- 青木別館 オーナー
- AKAGIやる気塾 塾長



鳥居峠にある廃線になった赤城山鋼索鉄道の前赤城山頂駅。同鉄道の旧利平茶屋跡(現在の利平茶屋森林公園) 付近から超望遠レンズで撮影。(撮影者:金子祥宏さん)

自分の信念は崩さず、フットワークは軽く！

毎年の気候の変動などによって赤城山、特に山頂エリアの観光は大きく左右されてきましたが、人の力ではどうにもならないからといって手をこまねいているわけにはいかない。人を惹きつける新しくかつ普遍的な価値を創造していくことが大事だと思っています。そんな思いで、かつて登山鉄道の山頂駅としてにぎわった鳥居峠にある旧駅舎をレストランとして再活用し、2018年にはその歴史的価値を周知するために国の有形文化財の登録も。さらなる新しい展開も予定していますので、乞うご期待ください！

塩原 勲さん Isao Shiobara

- 赤城山頂駅記念館サントリーバービア・ハイランドホール 管理人
- 赤城山ファミリーゲレンデ 管理人



2018年から毎朝、鳥居峠の日の出を見に。 #通う人

市街地から車を走らせること40分、鳥居峠の日の出をスマホの写真におさめ、Facebookにアップすることが日課となり、約5年半で1700回を超えました。冬は氷点下10度を下回る寒さに加え、大沼から吹き上げてくる爆風で数分とその場に立ってられない程ですが、そんな凄体験が車から下りてすぐできる場所はここだけなんじゃないでしょうか。1年を通して特に早朝は景色の変化が大きく、おすすめの時間帯。世界にも誇れる絶景をPRできるようにライブカメラ設置などの整備がすすんだらうれしいですね。

深井 浩さん Hiroshi Fukai

- 有限会社リョウモウ代表



鳥居峠の日の出 (撮影者: 深井浩さん)



赤城山らんたん祭り



覚満淵 (撮影者: 秋山博昭さん)

写真で、言葉で、行動で、赤城山を“推し”つづけた。 #通う人

未来の赤城山に望むこと。これまでどおり豊かな自然と、心休まる静かな環境です。けれど、「一人でも多くの人にここの良さを知って来てもらいたい。」そういう気持ちも当然あって。以前、千葉から訪れた方が「覚満淵」をご存知なかったのがご案内したところ、素晴らしい景色に非常に感動されて。こんなふうには、まだまだ知られていない魅力を伝えたくてXで情報発信をしています。SNS上での交流しかり、実際の赤城山での出会いしかり、これから先も人と人が赤城山を通してどんどんつながっていくことが赤城山ファンとしてはうれしいですね。

秋山 博昭さん Hiroaki Akiyama

- 前橋観光百景写真コンテスト入賞



「見たことない赤城山」で魅せる。 #通う人

際限なく湧き起こる好奇心を満たしてくれるのが赤城山です。数年前ふと思い立って県内外を問わずさまざまな秘境に足を運びましたが、何度も通いたくなる場所は赤城山だけ。覚満淵、地蔵岳や黒檜山登山が人気ですが、個人的には「銚子の伽藍」がイチオシ。地図にもないような道なき道を行き、冒険の果てに手に入れられる絶景は格別です。赤城山はそこにただあり続けていてくれたら、いくらでも自分で楽しみを見つけられる。そんな場所です。

金子 祥宏さん Yoshihiro Kaneko

- 前橋観光百景写真コンテスト入賞



カラフルに染まった銚子の伽藍 (撮影者: 金子祥宏さん)

森のランチにぴったりのスペシャルなパンケーキ。



朝10時、ランチタイムがはじまると平日、週末問わず、黒保根の山間のカフェに人が集まってくる。英語で楓(カエデ)を意味する「シカモア」という名のカフェテラス。日差しがたっぷり差し込むナチュラルで開放的な空間は、カリフォルニアのカフェをイメージしているそう。



プロジェクトを担当するマネージャーの岩崎さん。

「天井の梁など内装の「見える部分」にあえて古材を使用し、さりげなく非日常感を演出しています」と取材に対応してくれたマネージャーの岩崎将旺さん。2023年秋のオープン以来絶大な人気を誇るメニューは、パンケーキ。注文が入ってからメレンゲを立てて、片面10分ずつ鉄板にのせて低温でじっくり焼く。だからこそスペシャルと呼ぶにふさわしい、他にはないリッチな味わいを楽しめる。

「おいしさの決めてとなる卵は地元の神山養鶏場さんの朝採り卵を毎朝仕入れています。新鮮そのものなのでメレンゲを作るときに白身の切れが抜群」とメニュー開発から調理まで担当する店長の新井翔也さんは顔をほころばせる。

ワクワクしながら待つこと30分。焼きたてが運ばれてくる瞬間、芳醇な卵の香りが

さまざまなタイプのテーブル席があり訪れるたびに新鮮さがある。



べールのように広がり、幸せな気持ちに満たされていく。驚くほどフワフワなのにもっちりとした弾力もある生地は、米粉を使ったグルテンフリー。友達、カップル同士でシェアするのも楽しみの一つだが、「一人占めして食べたい!」そんな可愛い葛藤が生まれてしまうかも。

隣に併設された「スミテラス」は仲間や同僚など比較的大人数でワイワイ過ごせる全天候

型のBBQ施設となっている。カフェとBBQ施設を含むエリア帯は、2024年4月に「サウナの森 水沼ヴィレッジ」としてさらにバージョンアップし、2棟のコテージと3棟のサウナ、グランピング施設も同時オープン予定だ。「ぜひ森の中で“ととのう”素晴らしさを体験してほしいですね。同敷地内のお茶畑を再生することを計画。そこで採れたお茶の葉を利用したロウリュウなど、皆さんに喜んでもらえるイベントも考案中」と岩崎さんは目を輝かせる。

2023年から休館中の水沼駅温泉センターに替わる新たな温泉施設の誕生も予感させつつ、「渓谷沿いを走るわたらせ渓谷鐵道も含め、ワイドに非日常を満喫してもらえたら」と笑顔で締めくくってくれた。

シカモアカフェテラス

桐生市黒保根町八木原宮原579-1
0277-46-6679
10:00~18:00(L.O.17:30)



季節のパンケーキにカフェラテを添えて。



メニュー開発も担当する新井さん。



AKAGIFT バックナンバーのご案内

投票結果発表!
人気の表紙は
こちら

「道の駅まえばし赤城」観光案内所や、Webで「あなたが好きなAKAGIFTの表紙」を投票していただきました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました!

第1位
vol.11



鳥居峠
(地蔵岳 登山道から撮影)

第2位
vol.7



滝沢の不動滝

第3位
vol.5



地蔵岳

第4位
vol.3



雪原のような赤城大沼と
黒檜山

第5位
vol.9



赤城大沼ワカサギボート釣り
と黒檜山紅葉と霧氷

2017年秋に創刊した赤城山観光情報誌「AKAGIFT」。7年目を迎える2024年春夏号で一旦お休みします。14号にわたり、赤城山の観光をさまざまなテーマで特集してきました。バックナンバーは、赤城山の観光情報を発信するサイト「Akagi Trip (www.akagi-trip.com)」で引き続き掲載しています。廃線路、温泉、グルメ、古墳、伝統行事や地形まで盛りだくさん。ぜひアクセスして、ちょっとディープに赤城山観光の“素”を探してみてください。

バックナンバーはこちら >>



<https://www.akagi-trip.com/akagift/>

《発行者》 公益財団法人 前橋観光コンベンション協会 群馬県前橋市本町2-12-1 前橋プラザ元気21 TEL.027-235-2211

赤城山のことは /



Akagi Trip

<https://www.akagi-trip.com>



赤城山の玄関口前橋の観光は /



前橋まるごとガイド

<https://www.maebashi-cvb.com>



information

A K A G I F T

×



AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ!」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました!お出かけの際は各二次元バーコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね!